

<今回>309回目 2022年1月10(月祭日)16時~18時 第8会議室
読書は10冊目「失われた九州王朝」再読 p384、不明の学問僧たち より

<前回>308回目(21-12-24)出席者 8名

資料(21-12-24-1)前回のまとめ(清水)

- 一2) 日本書紀の編者は短里説だった(清水)
- 一3) 古代船について(榛葉)
- 一4) 倭国・日本国の遣唐使年表(高山)

A 報告 今年最後の会にたどり着けた。会場をここ、「かながわ労働プラザ」に移し、皆さんの協力に感謝して、一年を終えたい。無事に年を越せたら、新年から自由な懇談の場を広げたい。

B 資料2) 山田宗睦先生に旅行の合間に読んでもらった論文でほめられた。「多禰は京を去ること5千里」は土佐沖に行くのではなく、京は倭京、筑紫からの距離である。400kmとなる。もう一つ任那は筑紫国を去ること2千余里である。朝鮮海峡3千里より短い。任那は広い範囲を言っているのか不明だが、任は人偏を取れば北の壬を意味するから、北部九州の民衆が北方の同胞の地をさして呼んだのではないかという。3) 榛葉氏より、「古代船」について聞かれたが全く答えられなかったから教えてくださいと提示された論文。古代船についてよくまとめた物は知らない。遣隋使船が全長15mで、遣唐使船が全長30m、幅7, 8m120人以上乗っていたのは奈良時代の資料にあるのだろう。水産庁の方や古代船の資料をまとめている方は妹子を遣隋使と思っているから、注意して読まないといけない。古墳の内壁に書かれた構造船、埴輪の構造船、槇や櫂の船用と思われる木材辺が出土している。井戸の内壁の補強などに使われた。1艘25人くらい乗船か。水夫は半分くらい乗っていたのではないかと意見が出る。遣唐使船の大きさも次の4)の資料と同じで、合わせて議論になった。4) 高山氏より、倭国・日本国の遣唐使年表がわかりやすくA4にまとめられた。本日読書するとき手元で確認していこう。船に何人乗っていたか、日本書紀の大唐派遣1は大使長丹組121人1船、北路。又の1組は大使高田首根麻呂組120人1船、南島路、運悪く遭難5人が竹島に流れ着いた。2組は押使玄理組2船に分乗、北路。3は西海使長丹が無事に帰国したもの。北路。坊津は鑑真など漂着ルートではないか。

C読書 380頁 代表王者は何時交代したか から

- 1) 旧唐書の倭国は631年~648年通行、55年間間が空いて703年~839年以降、日本国となっている。
- 2) 巨大な琥珀、瑪瑙の献上は654年であるから空白の間隔は48年に縮小。
- 3) 日本書紀斉明紀には654年7月に中国の天子に接見、旧唐書本紀に654年12月に倭国の使者が琥珀瑪瑙を献上接見している。654年2月は玄理らの一行が渡海。拜謁。7月は西海使長丹らの一行が接見宝物や書物をもたらした。12月には倭国ら(琥珀瑪瑙)の一行が拜謁しているはず。
- 4) 玄理らは日本国の地理や神の名の質問を受けている。それに使者(玄理ら)はすべて答えている。
- 5) 高山氏より質問。p384の10行目。日本の名が両書に表記とあるが、日本書紀と旧唐書日本伝のことか。唐の劉徳行の派遣記事が唐にはない。日本書紀にはある。

2022-1-21(金) 15時から18時 かながわ労働プラザ 第8会議室

一2-4(金)15時から18時 かながわ労働プラザ 第8会議室